

## 2023 年度 第 1 回 外部評価委員会

2023 年度 第 1 回 外部評価委員会を開催しました。

日 時：令和 6 年 3 月 7 日（木） 18：00～19：00

開催形態：オンライン開催（Zoom）

委 員（敬称略）：

規程（号）	所属等	氏名	
(1) 本学を卒業した者、または大学院を修了した者	北海道文教大学同窓会「つるの会」 会長	後藤田 倫子	出席
(2) 地域経済界の関係者	恵庭商工会議所 専務理事	中川 淳一	出席
(3) 地域の高等学校関係者	北海道北広島西高等学校 校長	渡邊 周一	出席
(4) 地域の教育委員会関係者	恵庭市教育委員会 教育長	岩淵 隆	出席
(5) 大学等の教育機関の有識者	札幌大学 学長	大森 義行	出席
(6) その他大学に関し広くかつ高い見識を有する者	北海道教育大学 名誉教授	三上 勝夫	出席

学内出席者：学長、大学評価・IR 推進部長

内容等：大学より、毎年自己点検評価を実施しているが、今年度は大学認証評価の受審申請資料として点検評価報告書を作成しているので、これを評価いただきたい旨の説明があった。

当日の様子：



## 2023 年度 第 2 回 外部評価委員会

2023 年度 第 2 回 外部評価委員会を開催しました。

日 時：令和 6 年 3 月 28 日（木） 12：10～

開催形態：オンライン開催（Zoom）

委 員（敬称略）： 後藤田 倫子 出席  
中川 淳一 出席  
渡邊 周一 欠席  
岩渕 隆 欠席  
大森 義行 出席  
三上 勝夫 出席

学内出席者：学長、大学評価・IR 推進部長

内容等：点検評価報告書（2024.3.13 版）について委員より意見をいただいた。  
大学側より、この点検評価報告書は微修正のうえ、大学認証評価申請資料として大学基準協会へ提出することの報告があり、委員の同意をいただいた。

### 委員の意見

「食育活動の取組み」において市内にある農園との連携した取組についての記述があってもいいのでは。

大学としての健康経営への取組の視点があってもいいのでは。  
※経済産業省が推進する「健康経営」は職員などの健康管理を経営的な視点で考え、戦略的に実践する取組ですが、人間科学部的にアプローチもいいのではと思いました。

内部質保証のため、どのレベル（大学全体レベル、教育課程レベル、授業科目レベル）においても、3 つの方針（学位授与方針〔ディプロマ・ポリシー〕、教育課程編成・実施方針〔カリキュラム・ポリシー〕、入学者受け入れ方針〔アドミッション・ポリシー〕）を起点とした P D C A サイクルのマネジメントを機能させていることは重要な取組であり、今後も継続されることが望まれる。

教育研究活動、自己点検・評価結果、財務、その他の諸活動の状況等を大学ホームページ上で公開するなど、適切に説明責任を果たしている。ただし、ホームページは興味・関心を持っている者しか閲覧しないのが常であるとするならば、大学のホームページに各種情報が公開されていることを幅広く周知する方策が備わっていると、さらに広く社会に説明責任を果たすことにつながる。

建学の精神や 5 つの理念（不易ともいえるもの）を根底に置き、時代や社会の変化に応じて教育研究組織の設置・改編（流行ともいえるもの）を進めている。いわゆる不易と流行を重ね合わせることは、持続可能な大学運営の確立につながり、今後も幅広いリサーチ（R）のもと、引き続き適切な教育研究組織の設置・改編（R-P D C A サイクルの確立）が望まれる。

高等教育機関への進学率が8割を超えている現状において（令和4年度学校基本調査〔確定値〕では83.8%）、大学での学びに対する積極的な姿勢がなかなか持てない学生が少なからず存在するという課題がある。その中において、初年次教育の「総合教養講座」は、広範な分野をカバーしており、高大の移行や大学での学びを円滑にスタートするために有効である。

小中高大社接続という観点から、就職支援重視型ではない系統的なキャリア教育の充実、大学での学びに対する積極的な姿勢が持てないという課題の解決に一定の効果がある。そのため、一年次の必修科目「キャリア入門」や二年次の「キャリア形成」は重要な位置を占めており、今後も内容の充実が一層望まれる。

オンライン教育、留学生や障がいのある学生の修学支援など、喫緊の課題について適切に取り組まれており、今後も継続・充実が望まれる。

少子化に伴い、広報戦略を持つことは大変重要であり、指定校の増設、受験生のニーズの把握などは直接的なアプローチとして有効である。進路選択の相談相手は、先生の次に親（母、父の順）という調査結果が概ね見受けられることから、受験生の保護者の大学理解を促進させる取組も戦略の一つとして考えられる。

学生が学ぶ環境や条件の整備について、学びに直接つながる施設、設備等はずもとより、大学設置基準を大幅に上回る校地面積を有すること、校地の多くが樹木や芝生で覆われていることは、大学の強みの一つである。

地域連携、地域貢献の取組を充実させていることは大変重要である。学生の専門的な資質・能力に加え、汎用的資質・能力の育成を図るとともに、国の新たな教育振興基本計画（令和5～9年度）のコンセプトの一つである「持続可能な社会の創り手の育成」につながる。

理念・目的、内部質保証から大学運営・財務まで、全域に渡り丁寧に分析、点検・評価がなされた上で「2023年度点検・評価報告書」が作成されている。

こども発達学科の活動やボランティア活動、こどもの支援など不登校政策に繋がるもので、有意義なものである。

当日の様子：

